

平成30年度山形県立新庄神室産業高等学校 学校評価書（自己評価・学校関係者評価）

教育目標 (生徒像) 志高 創造 自立	幅広い知識と技術を身に付け、地域社会と産業の発展に寄与する人間の育成	めざす 学校像	規範意識を高めるとともに、社会性を育み自ら進んで行動する力を育成する学校
	柔軟な思考とたゆまぬ実践により、真理を探究する人間の育成		基礎学力の定着と向上を図るとともに、生徒個々の進路実現に向けたキャリア教育を実践する学校
学校 経営 方針	個性を尊重し、豊かな感性と創造性に富む人間の育成		特別活動を充実させるとともに、心身の健康と安全に努める学校
	心身ともに健康で、正義感あふれるたくましい人間の育成		地域と積極的な交流を図るとともに、地域の活性化に貢献する学校
	「いのちをつなぐ」人づくり 自尊感情を高め、他者の生命や生き方を尊重し次世代に繋ぐ 「学び続ける」人づくり 知徳体を磨き、柔軟かつ的確に課題解決できる力を育む 「地域とつながる」人づくり ふるさとを愛し、地域の未来をきりひらく意欲と心を育む		積極的な情報発信を行うとともに、有益な情報の共有を図る開かれた学校

達成度・評価：A達成 B概ね達成 Cやや不十分 D不十分

重点目標	評価項目	具体的方策と指導基準	自己評価		学校関係者評価		
			目標の達成状況、達成に向けた取組み状況と分析	達成度	次年度に向けた方策	評価	意見等
「いのちの教育」の推進と規範意識・主権者の自覚を醸成	① 互いのいのちを尊重する	生徒に寄り添う丁寧で的確な面談を実施できたか	面談や相談活動は生徒、保護者に寄り添い、生徒が抱えている課題を的確に捉え、関係分掌から協力を得ながら解決に努めた。生徒や保護者が、SCとの面談を希望する件数も増加し、子どものみならず、保護者への支援が必要なケースも多い。外部の専門機関や医療や福祉との連携が必要である。	B	より丁寧な相談体制の確立と停滞のない情報交換を行う。	A	・残念なこと、全国でいじめ等による生徒の自殺がなくなる状況にある。そのような状況の中で、いのちを一番に考えるのは当然であり、いのちを大切に教育やアンケートの実施等による把握とその対応に取り組んでいることは良いことである。 ・担任だけでは生徒からのサインを見逃す場合があるので、いじめなどのアンケートや子供が出す信号にサインを付けて、職員全体で見守り、情報共有を行ってほしい。 ・SNS利用による無神経な中傷の書き込みや動画の配信等で全国的に問題が生じている。生徒同士でSNSの良い点と悪い点を話し合い、その結果発表を行うことは効果があると思うので検討をお願いする。 ・企業が求める人材に求める能力はコミュニケーションという意見が多いので、今後とも重点的に取り組んでほしい。 ・生徒は、新聞を読む機会が少なくなっており、その状況の中で1学級1新聞の取組は良いことであると思われる。また、生徒が興味がある記事を説明し、自分の意見を話す機会をつくることは、自分の考えをまとめる、自分の意見を相手に分かるように伝えるスキル向上につながると思う。 ・これらの取組みが、主権者意識の基礎的な学習とコミュニケーション能力の向上につながるため、継続してほしい。
	ア 全ての生徒に自己有用感と自尊感情を持たせる	年2回(6月・12月)のいじめ・体罰発見調査アンケート実施に伴う確実な生徒ケアができたか	いじめ・体罰についてアンケート集約や個人面談など学年、学科等の協力を得ながら組織的に対応し、確実な生徒ケアに取り組み、粘り強い指導ができた。また、アンケート調査後、生徒や保護者と面談をしてクラス運営に協力していただくことができた。栄光を讃える会を通して生徒の自己有用感の醸成を図ることができた。 学年集会や主任講話等を各クラスで実施し、他者を理解し認め合う心の育成に向け努力した。	B	いじめ未然防止プログラムを実施した学年の評価や助言を参考にして、他者との違いを認め合う指導しながら方法を精選し、実施する。		
	イ 自分との違いを認め相手を理解する寛さを身に付けさせる	基本的な生活習慣を身に付け、社会の一員として自覚を深める	法令遵守への対応が涵養できたか	問題行動が少ないが、授業妨害等がある。毎月の身だしなみ向上チェックにより基本的な生活習慣も定着してきている。全職員で指導に当たり、生徒の意識が向上しつつある。実習着の着こなしの徹底や号令時の服装指導などを徹底し、基本的な生活態度の涵養を図ることができた。また、学年集会やLHRなどを通して、マナーやルールを遵守する心の育成に努めた。	B		
②	ア ルール遵守、そして個性伸長をはかる	SNSの適正な利用の指導ができたか	「薬物乱用防止講話」を実施したり、SNSを取り巻く状況を知らせ適正な利用の指導を随時行ったが、SNSでの問題が多く本校でも継続した指導が必要であった。	B	スマートフォン等利用のマナー指導を継続し、SNS利用で問題行動ゼロを目指す。		
	イ 情報モラルやコミュニケーション能力の向上をはかる	コミュニケーション能力向上のための取組を実施できたか	3回にわたるグループエンカウンターで、入学後早い段階から生徒同士のコミュニケーションが図られた。インターンシップ等を通して、コミュニケーション能力の大切さを学んだ。	B	教員生徒ともグループエンカウンター研修会に積極的に参加するなど、コミュニケーション能力の向上に努める。1年の朝学習で実施している「ソーシャルスキルトレーニング」について、内容を精選しながら今後も継続する。		
	③ 主権者意識を高める	1学級1新聞を活用し社会情勢に関心を持たせることができたか	学級日誌に新聞の感想を記入させたり、長期休業中の課題として新聞記事の切り抜き作業を行わせてことで、社会の動きに興味・関心を持たせ、自己の考えを伝える力を身に付ける機会を設けることができた。 新聞記事に関するコメントも書かしているため、実社会に対する自己表現を文字を通して行うことができた。 3年次の自由登校期間の登校日に、模擬投票と法律授業を行い、18歳選挙権に対応できる主権者意識を高める。	B	模擬投票を通じて、更に主権者意識を高める。 次年度も1学級1新聞があれば活用方法を考える。 進路指導の中で自己表現のスキルを高める。 意見発表会等を通して、自己表現の場として活用する。 課題研究など自分の考えを主張する機会を捉えて身に付けさせる。		
確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成	① 学力的充実・定着と体力の向上をはかる	基礎学力が定着したか	朝学習、基礎学力補習、職員研修を予定通り実施することができたが、基礎学力の大きな向上にはつながっていない。基礎力診断テストD3ゾーンの生徒は減少傾向にあるものの、テストを有効に活用できていない部分もある。専門分野での学習で工夫しているものの生徒の理解に結び付いていない点がある。	C	朝学習と補習の内容を精査し、見直しを図る。 課題研究など自分の考えを主張する機会を捉えて身に付けさせる。	B	・基礎学力や応用力の向上に対する取組みは努力されていると思われるが、学校だけでなく、家庭での学習の定着が課題だと思われる。家庭学習定着の工夫の検討が必要である。 ・個別指導については、良い成果があがっているものと評価する。 ・学力向上は良いことと思うが、社会に出た時の人との付き合いや社会のルール等、人がつくる社会であることの勉強も必要である。 ・企業やハローワークと連携した各種の取組みにより一定の成果が出ていると思われる。上級学校とキャンパスツアーや出前授業、研修の受入れなどを通じて高校との連携強化を進めるなど、今後も残された課題を整理しながら取り組んでほしい。また、農業の担い手を育成する教育機関でもある農林大学校と連携を一層強化して、高校3年・大学校2年の計5年で育成できるように体制を実現してほしい。 ・来年度は、本県で、農業クラブ全国大会が開催されるので、その機会を捉えて一層の能動的な学習の推進、充実を図ってほしい。 ・個別に支援が必要となる生徒が増加しているものと思われるが、校内で情報共有し、対応策を検討するとともに、現在、実施している各専門の部署とより一層連携強化し、相談やアドバイスをもらいながら取り組んでほしい。
	ア わかるまで取り組む粘り強さと家庭学習の定着をはかる	応用力を醸成できたか	授業アンケートの結果、昨年度2回目の数値3.08に対し、今年度1回目の数値が2.87と低下しており、生徒のやる気を引き出すさらなる指導が必要である。定期試験前の家庭学習の定着を補うため、放課後学習会などをクラスごとに計画し、試験対策学習会を実施できたが、家庭学習の定着策が急務である。	C	検定試験や資格取得への意識を向上と課題のチェック体制の充実を図る。 個々の進路目標達成のため、家庭学習の意義を考えさせる。		
	イ 健康で健全な身体づくりを推進する	個別指導が徹底できたか	個別指導による進路指導や公務員学習会の成果があった。(山大AO1名合格、土木公務員2名合格) 朝のHRで毎日欠かさず、健康観察とその記録を行い生徒の健康管理や変化に目を向けた。クラスによっては心身の健康管理ができず、学校を休みがちになる生徒がいた。学年全体の出席率が99.0%に届かなかったり、インフルエンザによる学級閉鎖があり、健康管理への意識が希薄であった。 年度当初の職員会議で学校安全マニュアル(保健担当箇所)と緊急連絡体制を周知徹底した。また、地震による火災を想定した避難訓練を実施。命の大切さ、初動活動の重要性を認識することができた。	C	進路・公務員講習のさらなる充実を目指す。 残部検診は、検診日に欠席のないよう今後も指導していく。未治療の生徒については、家庭と一層連携を深め、保護者の協力をどのようにして得るか検討する。 今年度より実施された「インフルエンザ集団発生についての対応」を確立していく。		
②	ア 計画に基づく組織的かつ系統的な進路指導を実践する	低学年からの進路相談が充実しているか	外部の進路ガイダンスやOBとの座談会へ積極的に参加させ、進路意識の醸成に努めた。産業基礎において職業リテネステストやクレバー検査、ライフプランの発表会等を実施し職業観の情勢や自己理解について取り組んだ。 進路指導部と連携し公務員対策学習会を行ったり、生徒及び保護者向けの進路ガイダンスを実施した。	B	産業基礎を中心に早期からキャリア教育を実践する。進路希望調査、4者面談を行い、相談を充実させる。 放課後学習会、補習等を充実させ実施する。		
	イ 学習のつまづきを放置しない授業づくりを展開する	企業訪問及びハローワーク等との連携強化ができたか	生徒が希望する企業への訪問やインターンシップに関わる企業訪問を通して、連携強化が図られた。また、ハローワークが主催する就職ガイダンスや進路会議にも参加し、有益な情報を獲得できた。また、教員も地元研修会へ積極的に参加した。 習熟度別学習やチームティーチングを行い、課題解決型学習の充実を図り、一定の成果を上げている。 農業科を設置するクラスでは、校内意見発表会を実施し、堂々と自分の考えを主張した。課題研究では生徒自ら考える力・行動力に物足りなさを感じている。	B	企業訪問に積極的に参加し、地域を知る。 これまで通り習熟度別学習やチームティーチングを行い、さらなる発展を目指す。学年を進むにつれて、基礎から発展へつながる授業形態、指導法を研修する。 合格軍のアップに向けた指導内容の検討し生徒の意識を高め、合格率のアップを図る。		
	③ 個々の生徒を伸ばす教科指導と特別活動の充実をはかる	資格取得の推進ができたか	農業技術検定2級の合格者を初めて出すことができた。 本校で実施している各種資格取得のとりまとめ状況を提供できたが、生業につながる資格取得をさらに推進すべきである。 インターンシップ報告会、進路報告会、課題研究発表会等を通して、聞いて理解する態度を養うことができた。学校祭学年展示に向けて、「平成」をテーマに各クラスごと個別テーマを決めて実践することができた。	B	次年度の農業クラブ県連事務所および南東北大会(全国大会)クラブ員代表者会議の運営官として本校生徒の活躍の場を広げる。 教材研究と定期的な教科会の時間の確保。 学習や研修で得た知識を修学旅行などの行事に活かす。		
④	ア 継続した教育相談を行う	定期的な校内での情報共有と研修が実施できたか	年2回(6月・11月)の教科担当者会において学年と教科担当者との情報共有が図られ、個に応じた支援体制の充実ができた。しかし、ノートをとることができない生徒など、様々な特徴を持った生徒に対して、教科横断的に対策を取る必要性も生じてきている。教職員の教育相談力を高めるために「学校と保護者が連携する生徒指導・支援の充実に向けて」職員保健研修会を実施した。また、組織対応が必要な生徒には、プロジェクトチームにてケース検討会(年間18回実施)を開催し支援を行った。Q-U検査を1年生に2回、2年生に1回実施した。	B	来年度も引き続き2回の担当者会を実施する。集団の状況をアセスメントするために、職員会議で情報を共有し不適応の未然防止を図る。		
	イ 支援が必要な生徒の情報は関係者間で確実に共有する	関係機関との連携による実効的な取組を推進したか	1学年では実施した「いじめ未然防止プログラム」(4月、9月、1月)は、教育センターの指導を受け職員研修を重ね取り組んだ。また、県教育センターの指導の下、効果的なグループエンカウンターを取り組みが実施できた。 特別支援教育については山形障害者就業・生活支援センター、ハローワークおよび企業と連携し就労支援を行っている。生徒の特性を理解していただきながら、卒業後も自立できるような支援が必要である。 関係各所の協力を頂き、迅速且つ丁寧な情報共有と保護者への対応ができた。特に、ABC委員会やケース検討会ではSCの助言をいただきながら内容を学年会において確実に情報共有されたが、人間関係を上手く築けない生徒や、進級や進路変更に関わる課題もある。また、ABC委員会の構成メンバーについて、検討していきたい。	B	各分掌と連携し継続した取り組みによりいじめや問題行動の減少に繋げていく。 適宜、関係する機関から協力を得ていく。 SC、ABC委員会等で情報共有する。		
	① 郷土・地域を理解する	地域課題解決型プロジェクト学習の推進ができたか	ミチノクヒメクリ、ラズベリー、伝承豆、コシアブラ、エリンギ等地域の特性を生かしたプロジェクト学習や、果実収穫機器の省力化、グラウンドの測量といったニーズに合った研究活動を推進できた。	B	引き続き地域の特性を生かしたプロジェクト学習を推進するとともに、ドローンを使った圃場管理や測量など、新しい取組みを実践することで、課題解決法を探る。 新庄まつり、Yボランティア、ジモト大学などを広く周知し、ボランティア活動参加の意識を高める。		
地域と係わり、地域の期待に応える学校づくり	② 郷土・地域と連携する	P.T.Aや小中学校・N.P.O.・先輩・企業等とのコラボレーションができたか	P.T.Aとの連携を図り情報交換と生徒理解を深めることが出来た。学校祭でもP.T.A企画の演奏会、模擬店を実施し学校祭を盛り上げた。P.T.A生活委員会主体で3回挨拶運動を実施し、生徒とふれあいを持つことができた。 本校オリジナルクリアファイルを教育後援会と連携して製作し、中学校をはじめ協賛企業に配布することができた。 ラズベリー、伝承豆の小学校への出前授業。地域の農業関連企業や農業法人から今年度も農産物品評会への協賛を得ることができた。 家庭、社会福祉協議会、最上総合支庁との連携による生徒の学習支援を行うことができた。 卒業生の協力を得て中学校へ向けて学校紹介プレゼンテーションを実施した。生徒、先生方から本校を理解していただいた。卒業生の進路講話は大変好評であった。	B	P.T.Aと地域清掃ボランティア等を拡大する。 出前授業等を積極的に実施する。 生徒への支援について、必要な機関との連携を深める。 地域市町村との更なる連携に向け、インターンシップや産業視察等の機会に行政課題や地域産業の理解を深める。 国内の土偶のレプリカ製作で、さらなる地域との連携を図る。		
	ア 課題解決実践・成果還元の見え化を行う	最上地域市町村との連携ができたか	3泊4日の農業体験インターンシップで各市町村と連携して行っている。ミチノクヒメクリ紅開発の取組みでは鮎川村との共同事業として進行することができた。農産物産地化プロジェクトという1つのテーマについて、農業・工業それぞれの視点から地域活性化につながる取組みを行った。 舟形町との連携で3Dプリンタによる縄文の女神レプリカの製作で、地域の活性化につながることができた。	A	ホームページの更新頻度を上げ、タイムリーな情報発信に努める。 産学官での連携に積極的に取り組む。		
	③ 郷土・地域に発信する	行事前後の学校情報の提供ができたか	産業田植え競技会など地域への案内や報道への取材の依頼などを行い、学年通信や学級通信とともに学校の情報発信できた。学校祭での保健委員会の研究活動を評価していただき、昨年度に引き続き未成年者飲酒防止教育学校コンクールにて、高等学校部門優秀賞を受賞した。 生徒の様々な活動をホームページに開催しているが、一部に過年度のデータが掲載されていた。 地区P.T.A総会を実施し、生徒の地域の様子の情報交換や地域清掃ボランティアを行った。 新庄中核工業団地立地協議会に積極的に参加し、企業との協働や地域行政機関との連携強化を図った。また、地元企業・建設業協会・役所等との連携を深めた。	A	ホームページの更新頻度を上げ、タイムリーな情報発信に努める。 産学官での連携に積極的に取り組む。		